

雜 錄

— 鐵 鋼 ニ ュ ー ス —

中南米及び東南アジアの鉄鋼生産

わが国鉄鋼輸出の主要市場は主としてアルゼンチン、ブラジルなど南米諸国、それにインド、パキスタンなどの東南アジア諸国であるが、これ等諸国の鉄鋼生産状況と鉄鋼業建設計画の概要は次のようなものである。

○中南米 現在中南米諸国で鉄鋼業らしいものがあるのはブラジル、メキシコ、アルゼンチン、チリの4ヶ国であるが、これらの設備は何れも過去15年以内の大部分10年以内の建設によるもので、1昨年の生産高は合計200万t程度であるが、現在進行中の建設計画が完成する1960年には鋼の生産は4~500万tに上り、需要の大半を賅われることになる。

アルゼンチン：1938年生産2万t、1953年30万t、消費85.8万t、計画40万t。

ブラジル：1938年生産9.2万t、1953年98.4万t、消費110万t、ヴォルタ・レドンド工場拡張計画がある。

チリ：1938年生産2.3万t、1953年31.3万t、消費25.5万t。

ペルー：1953年消費9.3万t、6万t工場建設中。

コロンビア：1953年消費15.6万t、14.5万t工場1954年11月操業開始。

ベネズエラ：1953年消費60万t、20万t工場計画中。

メキシコ：1938年生産13.3万t、1953年49.3万t、消費97.8万t、新工場建設中。

○東南アジア

インド：67.5万t工場および100万t工場の建設計画が進められており、さきに日印合併製鉄所建設計画も話題となった。

パキスタン：グループ社による年間30万tの鋼塊および5万tの銑鉄工場建設計画が進められている。

この外比島、タイなどにも種々計画されている。

淀川製鋼の新圧延機稼働

淀川製鋼ではかねて設備合理化の一環として旧呉海軍工廠の一部を借入れ、総工費10億3千万円を投じて建設を急いでいたアメリカEW社製可逆式冷間連続圧延機がこの程完成本格操業を開始する運びとなつたので、昨12月18日現地に関係者を招き竣工式を挙行政した。

同工場は旧海軍呉工廠跡に設立されたもので、旧軍港を利用して原材料の入荷、製品の出荷とともにその水利を最高度に利用出来るもので、このほど建設稼働した新設備は最新鋭の高性能設備を集約したものといわれ、その生産品は高級仕上鋼板、磨帯鋼となつている。

ステンレスの合せ板

三菱製鋼ではかねて計画していたステンレス合せ板の製作を初めた。これは耐食、耐酸性の点で優れた性質を持つているステンレスを軟鋼板の表面に張りつけたもの

で、ステンレスその物よりは値段が安いというのが特長で、近く某化繊メーカーの人絹プラントに50tが使われることになつている。

ステンレス合せ板はすでにドイツ、アメリカなどで多量に使われているものだが、わが国でこの製作をするのは同社が初めてである。

同社のステンレス合せ板の製法は、間に剝離剤を挟んだ2枚のステンレス板の上下を更に軟鋼板ではさみ、その儘全体を圧延して軟鋼とステンレスを2枚1組にしたもので、その利点は次のようである。

(1) 十分な接着強度を有しており、加工や急熱急冷に対してもはげおそれがない。

(2) 思うまゝの層数、板厚のものが出るが10mm以上の厚物はとくに有利。

(3) 熔接性がよくステンレスに比べ価格が安くステンレス2mm、軟鋼板12mm、計14mmの厚さのものでt当り30万円見当。

したがってステンレス板と同じく化学装置などに使われるものと見られる。

新型すずメッキ装置

八幡製鉄所では戸畑第2冷間圧延工場内に総工費4億1千万円で電気すずメッキ装置の建設を進めていたが、この程主要機械の掘付を完了、1月から試験操業を始め、3、4月頃から製品を出荷する。

同装置は米国U. S. Steel社が特許を持つフェロスタン・システム(垂直酸性式電気メッキ法)と呼び、同国ウイーン社が製作したもので、わが国では初の装置だが、従来の高温浸漬(どぶづけ)メッキ装置に比べ、

(1) すずの付着量が非常に少なく、規格によつて差異はあるがすず消費量は平均半分以下、最も少ない場合1/6ですむ。

(2) 長大なブリキ原板を連続的にメッキすることが出来、能力は1セットで高温浸漬メッキ装置の10~14合分に相当し、同一生産量の作業人員は1/5ですむ。

(3) コストは大巾に下る。(4) メッキ面の仕上がり美しいなど多くの特徴を持つており、ブリキ原板の処理能力は月間約9,000tとなつている。

樹脂加工の鉄板

東京亜鉛鍍金会社では、かねて耐食性の強い「レジン鉄板」の研究を進めていたが、3月ごろから本格的な販売に入りたい意向のようである。「レジン」鉄板とは特殊な化学的処理を施した磨薄鉄板に合成樹脂を高温のガスで焼付けたものである。したがって従来の亜鉛鉄板にくらべ耐食性が強いのが特長で、同社が都立工業奨励館に依頼した亜鉛鉄板との耐食比較試験では亜鉛鉄板に比較してとくに硝酸、王水、塩酸、硫酸などに対する耐食性が高いことが明らかになつている。このため同社では化学工場用として大量の需要を見込めるだろうとして目下化学工場に試作品を提供してその実用成果を確かめている。